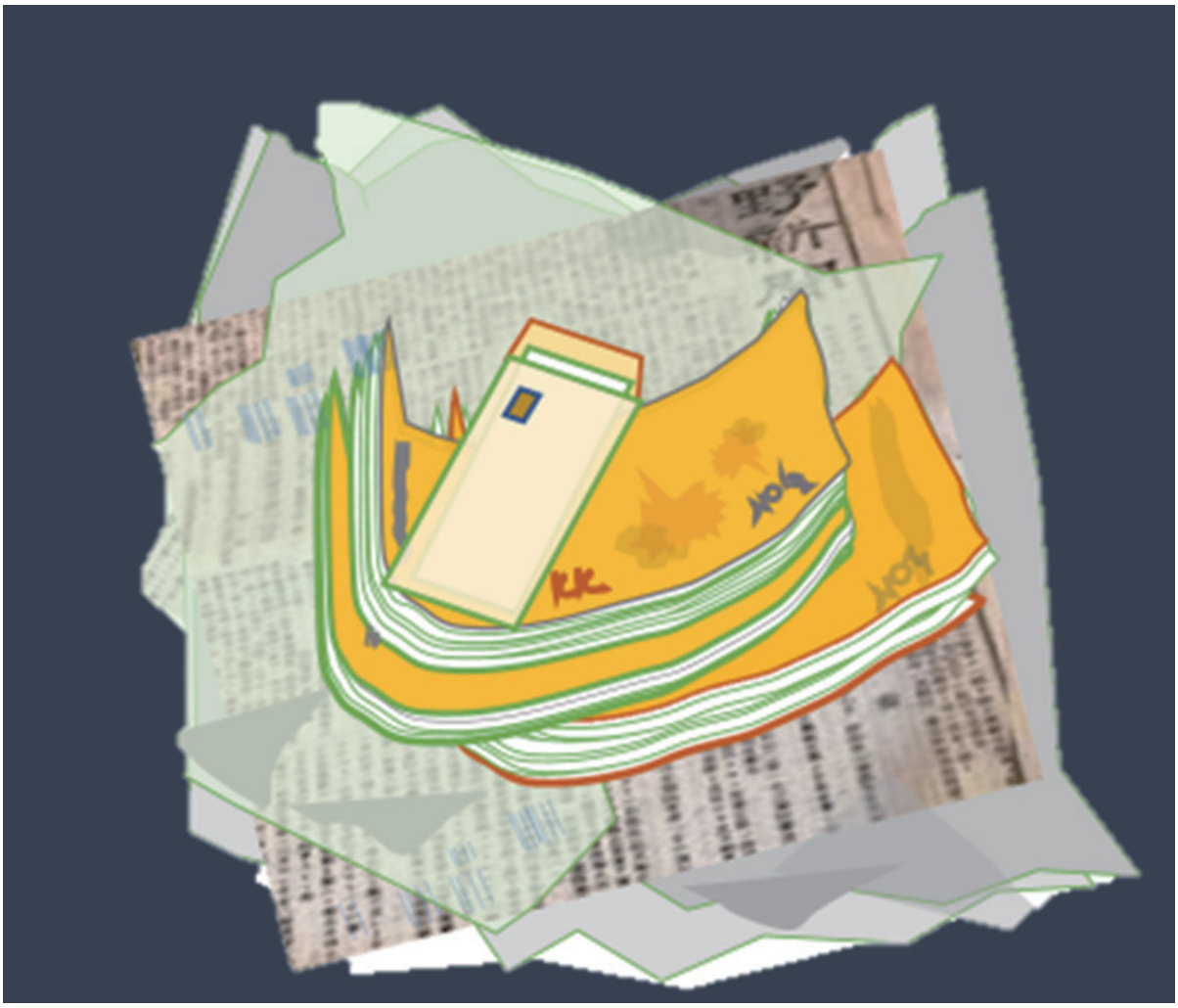
有島記念館と歩む会
土香る会

November2023
11月30日発行
16

P 2 ▶ 巻頭言　藤波ひとみ
P 3 ▶ 特 集「人」 百年を超えた有島灌漑溝
有島謝恩会会長 飯塚健造さんインタビュー
P 7 ▶ 文庫本委員会からの報告　高木直良
P 8 ▶ 「未来会」報告　高木直良
P 9 ▶ 「狩太夜話」デジタル化の楽しみと呼びかけ　斉藤 海三郎
P 10 ▶ 土香る会事業報告
P 11 ▶ 有島記念館事業報告
P 12 ▶ あなたのこえ、みんなのこえ、わたしのこえ「小さくなる話」　井上 剛
P 14 ▶ 終わりにひとこと　櫻井 麻衣子



表紙デザイン（n.t）
有島武郎『生れ出づる悩み』の1シーンよりイメージ

「…ともかくもと思って私はナイフでがんじょうな渋びきの麻糸を切りほごしにかかった。油紙を一皮めくるとその中にまた麻糸で堅く結わえた油紙の包みがあった。それをほごすとまた油紙で包んであった。ちょっと腹の立つほど念の入った包み方で、百合の根をはがすように一枚一枚むいて行くと、ようやく幾枚もの新聞紙の中から、手あかでよごれきった手製のスケッチ帳が三冊、きりきりと棒のように巻き上げられたのが出て来た。」

土香る会
ホームページ

―巻頭言―

新たなスタートをともに

土香る会運営委員代表
藤波　ひとみ

今期から役員会という名称ではなく「運営委員会」として会の運営に取り組むことになりました。この変更に伴い大きな変化がありました。それはこれまで事務局に集中していた仕事を運営委員8人で分担したことです。それぞれ自分が得意とし、関心を持つ事業を主体的に選び担当することにしました。2か月ごとに開かれる運営委員会議を通じて、各事業の進行状況を確認し、発生した課題について議論し方針を定めます。

正直に言うと、事業を分担する時はもっと揉めるものだと思っていましたが、実際には全くそんなことは無くスムーズな話し合いで偏りなく決まりました。自己主張するけれど協調性もある理想的なチームです。新しい運営体制となった土香る会をこれからもどうぞよろしくお願いします！

さて、今年は有島武郎没後百年を迎え有島記念館で様々な事業が開催されていますが、土香る会では昨年度「有島農場解放百年記念事業」として取り組んだ有島武郎作品の文庫本第1集の発行が遅れており、そのため「没後百年記念文庫」になりました。文庫本発行に対して、なぜこんなにも時間がかかるのかと疑問を抱く方がおられるかもしれません。わたしも当初は単純に考え、作品の選定、表紙の構想、印刷会社への依頼とステップを踏めば簡単に発行できるものと思っていました。しかし実際に作業を進めていくと複雑な問題が次々と生じ、その度に議論を重ね方針を決定するということを繰り返しています。特に、今回は有島の翻案作品など三つに加え、うち二つの原作を土香る会が翻訳し収録するので、その作業は膨大で困難を極めています。このような事情をご理解いただき発行まで今しばらくお待ちください。そして、文庫本発行の作業に興味を持たれた方は、ぜひご参加いただけると嬉しいです。また、文庫本発行以外の事業につきましても、企画運営に携わっていただける方を募集しています。会員以外の方にもこの会報で関心を寄せていただけたら幸いです。会の全体につきましてはホームページがありますのでご覧ください。

新しい運営体制になりましたが、会がこれまで貫いてきた有島武郎の生き方や芸術から学ぶ姿勢に変わりはありません。わたしは今期運営委員代表となりましたが、会員としての活動歴は浅く有島武郎の思想や作品をまだまだ十分に理解していません。ただ、社会福祉協議会に長く勤めていますので「相互扶助」は、いつもわたしの悩みの種となり、自問自答してきました。土香る会の活動の中でたくさんのことを学べる予感がしています。みなさんのご支援とご参加を心よりお願い申し上げます。

秋の有島灌漑溝(貯水池)

特集

有島武郎と人

インタビュー

聞き手
櫻井 麻衣子
梅田　滋
（土香る会運営委員）
2023.9.13

有島謝恩会会長　飯塚 健造 さん

コロナ禍の間も、有島灌漑溝の草刈りは休むわけにはいかないんだよ

1921（大正10）年の11月「有島灌漑溝」が竣工し、翌年春から稲作に大活躍しました。今年で101年になります。[※1] そこで、有島灌漑溝ができて通水されてから灌漑溝はどのように維持管理されて今日に至っているのか、有島謝恩会会長の飯塚健造さんをお宅に訪ね、お話を伺いました。

――私は今年から土香る会の活動に参加したのですが、有島灌漑溝のことは名前は聞いていましたけど、詳しくわかっていませんでした。灌漑溝は水源地から約4キロもの延長があって、ニセコ小学校のあたりまで延びていると聞きました。このこともほとんどの町民は知らないようですし、小学校の子どもたちも知らないと思うんですね。それで、今回色々と教えていただいて、土香る会の「会報」でご紹介したいと思っています。

有島謝恩会では、灌漑溝は毎年掃除などしているんですか？

飯塚：灌漑溝は、特に水田にとってはなくてはならないものなので、必ず毎年2回掃除しているんだよ。5月には「泥上げ」をして、6月には「草刈り」をしている。有島謝恩会が中心になって、会員でなくても有島地域に住んでいる人に幅広く参加を呼びかけているんだ。なにせ、4キロ以上もの長い水路を掃除するには、大勢の人手が要るからね。

――謝恩会の会員って、現在何人いらっしゃるんですか？

飯塚：現時点で31人。でも中には都合が悪くて参加できない人もいるから、謝恩会の会員でない町内会の人なんかにも声をかけるんだよ。泥上げも草刈りも、いつも朝7時から始めてお昼までびっしりかかるんだけど、20人ぐらいだとそれぞれの負担がとても大きくてね、30人くらい参加してくれるとまあなんとかなるんだよね。でも、みんなだんだん年取ってくるから、大変なんだ。

――この頃有島にも若い新規就農者が来て、若い人の参加も増えているような気がしますけど。

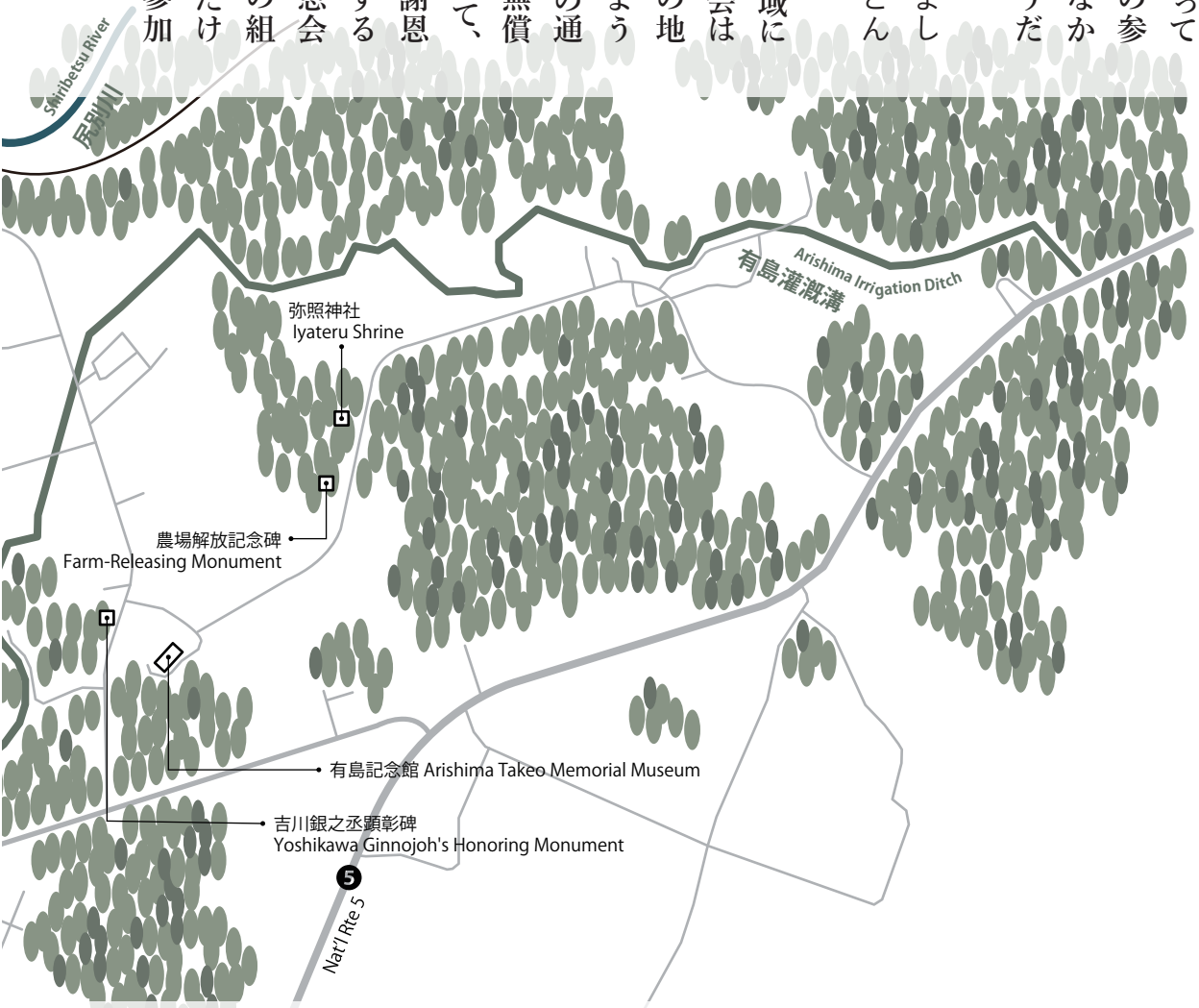
飯塚：そうだね。でも、農業者以外の若い人は仕事などで忙しいから作業日をなるべく週末にするなど気を配って毎回声をかけて、集まってくれるよう努力しているんだ。この間は、今度有島に立地する茅乃舎（かやのや）さんからも3人くらい若い女性が参加してくれ

て、とても助かったよ。灌漑溝の維持活動は、単に作業ということではなくて、有島地区で一緒に暮らすコミュニティ意識も育ててくれるので、大切なことだと思ってるんだ。有島地区以外からの参加者も時々いるけど、なかなか継続しての参加は難しいようだね。

——町内会もあるって聞きましたが、謝恩会と町内会ってどんな関係なんですか？

飯塚：謝恩会は有島地区全域にまたがった組織だけど、町内会は有島地区に4つあって、ほかの地区の町内会とほとんど同じような役割だね。謝恩会は、名前の通り、有島武郎さんが農場を無償解放してくれたことに感謝して、農地以外の灌漑溝と神社は謝恩会が所有してみんなで管理する仕組みなんだよ。だから、謝恩会と町内会はそもそも別々の組織。住んでる人は、どっちかだけに参加している人や両方に参加している人などいろいろだよ。謝恩会は特に、有島さんが解放した時以来やその後のゆかりの農業者が多いけど、最近のようにいろんな人たちが移り住むようになって農業以外の人も増えてきたから、そんな人にも声をかけて理解が得られれば参加してもらっているんだ。

灌漑溝の役割には、水温を温める機能もあるんだよ



——農場解放以来の元々の方って、今では飯塚さんや亀田さん、新沼さん、田中さんぐらいですよね。新しく移り住んで謝恩会に入ってくれた人たちって、有島武郎や農場解放のことなど知っているんでしょうか？

飯塚：どうだろうね。そんな歴史的なことより、有島地区が好きで移り住んだ人たちだから、ここを少しでも良くしようという気持ちで謝恩会に参加してくれているような気がするなあ。

——灌漑溝の水って、本来は農業用水だけど、農業をしていない謝恩会会員の人は灌漑溝をどの

ように受け止めているんでしょうね？

飯塚： 農家でなくても、家庭菜園で水を使うとか、車を洗うとか（笑）、暮らしの中でなにかと灌漑溝の水をあてにすることがあるから、そんな利用への感謝の気持ちもあるかもしれないな。だから、農家ではない会員もかなりいるんだよ。でも、中には、灌漑溝の近くに住んでる方などで、暮らしで何気なく灌漑溝の水を利用していてもそれが謝恩会の水だという意識があまりないのか、草刈りに参加してくれるというのはあまりないよね。残念だけど、いつかそのことに気がついて草刈りなどに参加してくれるといいんだけどなあ。

――謝恩会って、有島地区以外の人も会員になれるんですか？

飯塚： いや、有島謝恩会の元々の趣旨から、有島地区の人だけに限定しているんだよ。だって、有島農場の解放によって恩恵を受けたことへの感謝の気持ちが始まりだからね。だから、以前にも、地区外の人は会員になれないのかと聞かれたことがあったけど、そういう趣旨だからね。

――でも、灌漑溝の泥上げや草刈り作業には、会員以外でも参加できるんですよね。[※2]

飯塚： それはとてもありがたいことなので、その気持ちを受け止めて参加してもらってる。作業が終わった後の直会なんかも一緒に楽しんだりしてるよ。それから、謝恩会のもう一つの大きな仕事は、弥照（いやてる）神社での春と秋の例大祭に向けた神社の掃除と祭りの主催があるんだけど、このお祭りには地区外の人も含めてどんな人でも参加を歓迎しているんだ。だから、以前は、近隣などからずいぶんいろんな人が来て一緒にお詣りなんかしてくれたけど、この頃は少なくなってちょっと寂しい状態なんだよね。

――謝恩会の会費って、いくらな

わざと
曲がりくねらせて
地区内に点在している
水田を巡らせたり、
ゆっくり流れる工夫がされてるんだ

んですか？

飯塚： 年間3千円。町内会費が5千円だから少し安いけど、謝恩会に会費払っても、町内会のような様々な恩恵や利便があるわけではなくて、むしろ、草刈りとか神社の掃除とか作業負担があるから、なかなか誘いにくくてねえ。まあその代わり、灌漑溝も神社も行事が終わった後で直会に参加して飲食や交流を楽しんでもらっているんだけどね。あ、そうそう、今年の秋祭りは9月18日にするんだけど、コロナ禍も緩んだので、3年ぶりに直会で焼肉をするんだよ。土香る会のみんなにも来てほしいな。

――じゃあ、誘ってもいいんですね？

飯塚： みんな来てくれた方が、神社の神様も喜ぶし、交流が図れるんで大歓迎だよ。

――灌漑溝の話に戻りますけど、謝恩会と水利組合って、どんな関係なんですか？

飯塚： もともとは別の組織だったんだ。だって、有島さんの農場解放と同じ年に灌漑溝ができて、その時からその維持管理のために水利組合が必要だったし、謝恩会はそのずっと後の戦後になってからできた組織だからね。でも、謝恩会ができて謝恩会が灌漑溝の草刈りなんかをするようになってから、水利組合とやることが一緒だし構成メンバーもほとんど同じだから、一つに合体したんだよ。

――合体して「謝恩会」の名前にしたのは、歴史を尊重している感じがあってとてもいいですね。

飯塚： 他の地区では「水利組合」が用水路の管理をしているから、有島地区の特徴かもしれないね。これは、歴史的な特殊性かな。

――そういえば以前お聞きしたことがありましたが、灌漑溝の最上流水源地あたりの水温と最下流地点ニセコ小学校あたりの水温って、どのくらい違うんですか？測定したことがある、とおっしゃっていましたよね。

飯塚： 天候によっても違う結果だったけど、5度から6度は違う結果だったなあ。灌漑溝の役割って、単に水を通すだけじゃなくて、水を温める機能もあるんだよ。水源は羊蹄山の湧水だから水温が低くてそのまま田んぼに流すと稲によくないんだ。それで、水温を上げるために、最上流部にため池を作って水を滞留させたり、水路の傾斜を地形の傾斜よりもっと緩くして水がゆっくり流れるようにして所々に地形の高低との差を調整するための落差工、「斜段」って言っているけど、そんな仕掛けを何箇所にも設置したり、ルートをわざと曲がりくねらせて地区内に点在している水田を巡るようにしたり、要するに、長い時間かけて水が灌漑溝をゆっくり流れるような工夫がされているんだね。それと、草が生い茂ると太陽の熱が水面に届きにくくなるので、毎年の草刈りは、ものすごく重要な仕事になるんだ。だから、コロナ禍の時も、草刈りだけはみんな集まって例年と同じようにやったんだよ。稲の生育に影響する死活問題だからね。

――灌漑溝は水をゆっくり流すような構造になっているということですが、水源地から小学校までの全行程4キロを流れるのに、どのくらいの時間かかっているんでしょうね。

飯塚： 以前測ったことあるけど、大体半日かかっていたなあ。

――じゃあ、草刈りにかかる5時間とほぼ同じくらいの時間をかけて水もゆっくり流れているってことですね。灌漑溝に関わる水と人の時間がほぼ同じくらいというのは、水の流れと共にある灌漑溝保全活動、って感じがします。なんか、自然との一体感もあって感慨深いですね。

今日は、灌漑溝についてのいろんなお話、ありがとうございました。

灌漑溝は、特に水田にとってはなくてはならないもの。5月には「泥上げ」、6月には「草刈り」。

謝恩会のもう一つの大きな仕事は、弥照神社での春と秋の例大祭に向けた神社の掃除と祭りの主催。

飯塚さんのお宅にお邪魔してすぐに気がついてびっくりしましたが、居間の隣のお部屋の壁に、「相互扶助」の大きな書が掲げられていました。思わず「有島武郎の揮毫（きごう）のものですか？」とお聞きしたら、「いや、私の姉が書いたものなんだ」とのこと。有島武郎に負けないくらい立派な書なので、かつて吉川銀之丞が共生農団の事務所に飾り後に有島記念館に寄贈し展示物となった武郎の「相互扶助」を彷彿とさせます。

この書を拝見して、「相互扶助」の精神を伝えようという飯塚さんの謝恩会会長としての内なる信念を改めて強く感じることができました。

※注1

1921（大正10）年の11月、有島灌漑溝が竣工しました。翌1922（大正11）年の春5月には工事完了検査に合格し、早速その年の稲作に活躍しました。有島農場が無償解放されたのは田植えが済んで落ち着いた頃7月18日でしたので、有島の農場解放と灌漑溝通水は、昨2022（令和4）年が百年目にあたったのです。土香る会でもいくつかの記念事業を行いました。

そして、そのさらに一年後の1923年春、思いもかけない事件が起きました。灌漑溝の支援制度資金として活用した北海道の補助金が、管理人吉川銀之丞によって不正流用されたという嫌疑で警察が立件したのです。嫌疑そのものは事実上晴れたのですが、結果として吉川銀之丞は5月に岩内裁判所で執行猶予付き有罪の判決を受けました。高山亮二さんの研究により、これは有島農場解放に対する権力による弾圧であることが指摘されています（『有島武郎のもう一つの死』高山亮二著／一九九六年星座の会）。

この有島灌漑溝補助金事件から今年で百年になります。有島武郎が心中した一ヶ月前の出来事でした。

※注2

土香る会からも、泥上げや草刈りに毎年参加しています。

文庫本委員会からの報告

高木　直良

1　文庫本出版の目的

文庫本出版は、有島農場を無償解放したちょうど百年後に当たる昨年2022年の記念事業の一環として企画されました。有島の作品が暗い、重い、難しいというイメージを持たれていることの理由に、そういうイメージの作品しか書いていないという誤解や社会主義的な考えを持った作家、人妻と心中した作家などの印象があるという会員の意見もありました。

これらのイメージにもかかわらず有島を身近な作家にしたい、老若男女すべての人に作品を読んでもらいたいということで、文庫本のシリーズ化という案が生まれました。

以下、現状の報告をします。

2　現状

そのシリーズの最初の企画が有島の翻案・模訳（有島独自の用語）作品をそれぞれの原作（翻訳）と並べて読み比べてもらおうという趣向になっています。

※「翻案」…既存の事柄の趣旨を生かして作りかえること。特に小説・戯曲などで、原作の筋や内容をもとに改作すること。明治以後、とくに西洋の作品を日本風に改作することが盛んになった。【精選版 日本国語大辞典より】

①　収録の作品

有島武郎の作品―戯曲「ドモ又の死」、「燕と王子」、戯曲「小さい夢」

原作―マーク・トウェイン作「彼の生死は？」、オスカー・ワイルド作「幸福な王子」

②　原稿の準備

有島の作品を読みやすくするため、現代語に置き換える作業、難しい言葉の注やルビなどの細かい作業は完了しています。原作は、原語の作品を特定し、その翻訳を必要とします。二作品とも可能な限り分かりやすい翻訳に努めています。

③　文庫本の構成や体裁、装丁の準備

文庫本の本文の文字サイズや行間の設定、表紙や中扉、発行の言葉やあとがき、解題など全体の構成はほぼ確定し、準備が進んでいます。表紙デザインやカバーデザインは私が担当し、いくつかの案を実行委員と相談しながら検討しているところです。

④　販売ルートの検討

文庫本の価格の設定は、全体のページ数や出版部数などを確定した段階で、専門会社に見積りをしてもらい、諸経費を加味して決めて行きます。できるだけ、これなら買って読んで見ようという価格やデザインを決めて行きます。

その上で、どこで販売するかが大きな課題です。有島記念館はもちろんですが、ニセコ町内での販売場所や、ウェブ販売の可能性も検討しています。

詳細については、今後運営委員会での議論で決めて行きます。

「未来会」報告

高木直良

あまり聞きなれない会の名前で、その存在も忘れられかけていると思いますが、再始動させようという試みです。きっかけは、2018年に町が牧羊舎と牧草エリアの活用方法を公募したため、民間の集客施設になりかねないという危機感から、有島エリアの未来を私たちが描く必要があるのではないかと議論したことでした。

現在まで保たれてきた有島農場以来の農村景観や歴史的に保存すべき施設など、その存在を私たち自身が認識し、ニセコ町民のみなさんとも共有して行こうという思いが語られました。およそ以下のようなことで、現場を実際に歩いたりもしました。

【1】現状の把握…地区全体の土地利用がどうなっているか

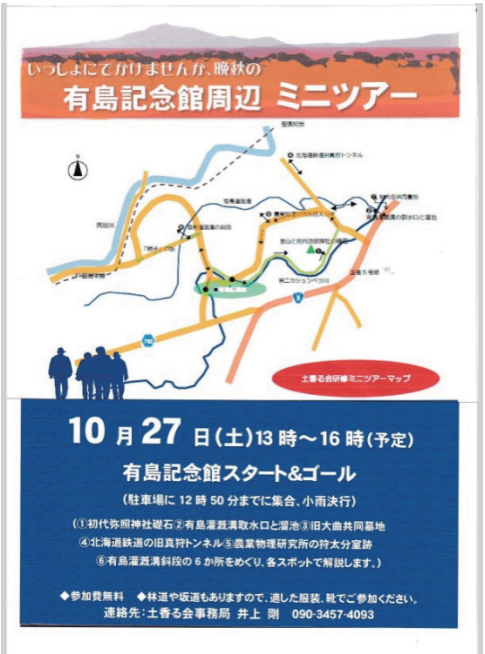
- 有島農場メモリアル施設…弥照神社、解放記念石碑、灌漑溝、宮山
- 小説の舞台…親子の坂、共同墓地
- 公園エリア…記念館、牧羊舎、銅像、記念碑、広場
- カシュンベツ川沿いフットパス
- 農地、住宅、農村風景、緑地風景

【2】今後の位置づけの視点…町民や来訪者にもっと親しまれ、活用される場に

①有島文学に触れ、その舞台としてのエリア…木田金次郎や地元ゆかりの文学者（畔柳二美、阿部信一）、学者（中谷宇吉郎）の作品にも親しめる

②狩太共生農団の理念と実践の歴史を感じ取る…案内版の工夫

③美しい自然と農場の景観を楽しむ場＋文化の香りのするエリア…牧羊舎の利用、音楽やアート作品（屋外）に触れる芸術祭



2018年取り組みのチラシ

④広場として自由に楽しめる空間（美しい芝生、カシュンベツ川とフットパス）→じっくり楽しむ→カフェ&農家レストラン（宿泊も可能な）、散策の道（広場から館内カフェに出入りできる工夫）

⑤他のエリアとのネットワーク…遊歩道（フットパス）、サイクリングロード

【3】散策マップづくりとミニツアーの取り組み

2018年には上記の議論を経て、灌漑溝をメインにしたルートを担当者ごとのポイント解説を加えてミニツアーを行いました。

【4】今後の取り組み

…まだ、エンジンが温まっていません。新たに運営委員になった人を含めて3人で、近く懇談する予定です。

「狩太夜話」デジタル化の楽しみと呼びかけ

斉藤　海三郎

「狩太夜話」は、百年以上前有島武郎が有島農場にかかわりを持っていた時代の、農場や狩太町（現ニセコ町の旧名）に関連するさまざまな出来事、事象、文化活動などを記録したものです。戦後、狩太小学校の校長をしていた齋藤修二氏が手書きでまとめたもので、全体で8輯（しゅう）からなります。

これを多くの人に広く読んでもらうためには、コピーが必要ですが、コピーを繰り返すごとに文字の質が低下し、読みにくくなることから、テキストをパソコンでデジタル記録に変える必要があると考え、プロジェクトが昨年から始まりました。現在第2輯のデジタル化に3人が取り組み、年内を目標に完成を目指しています。

旧漢字や仮名遣い、古い表現などが混交した手書きの文字や、時には候文の手紙の写しなどを不鮮明なコピーを相手にデジタル化する作業は、いつも推理の連続です。謎解きに似た感覚に陥ることもしばしばですが、じつはこれが楽しいのです。わからない文字や読み方を調べ、全体の文章から意味を推理して文句を特定したり、文脈から当時の生活や慣習や文化を想像し、文章としての整合性を考えたりします。そして謎の意味を理解し、その解を「発見」した時の満足感と喜びが嬉しいのです。各人の推理が正しいかどうかは、参加者同士の相談や討論で判断され、より正確になっていくプロセスもまた、学びの喜びです。

デジタル化を終えた内容に関連し、読書会や感想を出し合う会、当時の時代を思い描く散策の計画作りなども検討しています。未来会とも連携し、フットパスツアーなどを実施したいと考えています。これらの取り組みに挑戦しようとする仲間を募っています。ご興味のある方、左記へご連絡ください。

info@tsuchikaoru-kai.org

第１輯（PDF）

ホームページの更新状況

2022年度は、ホームページの中に「有島農場解放百年」記念事業を紹介する特別コーナーを設置していました。その記念年が終わったことで、再び従来の構成に戻し内容を更新しています。

なお、2023年は「有島武郎没後百年」の記念年ですが、土香る会としては記念事業を組んでいませんので、ホームページも通常のままです。

また、「事業内容」の「活動余滴」コーナーに会員による創作作品や研究論稿を順次掲載してきましたが、今後掲載作品に一定の基準を設けるか否か、運営委員会で検討しました。その結果、従来通り、ヘイトクライムなど社会通念として認められないもの以外は、投稿者の自由な応募作品のまま掲載することとなりました。

土香る会事業報告

年次総会

・書面により、6月5日(月)の締め切りまでに回答が15名から寄せられ、1号議案から6号議案まで全て承認されました

・新しい体制と運営委員が決定し、それに伴い会則の一部が変更となりました

・新しい運営体制は下表の通りです

運営委員会の報告

4／5（火）10：00～12：00

・文庫本出版に向けた協議

・2023年度に向けた協議と総会の準備

5／9（火）10：00～12：00

・新しい運営体制について協議

・総会議案書確認(決算・事業報告・予算案・会則ほか)

・文庫本出版に向けた協議

6／9（金）10：00～12：00

・総会議案の承認事項確認

・運営委員代表と各委員の役割分担について決定

・会員状況と連絡方法について確認

8／1（火）10：00～12：00

・各事業の進捗状況報告（文庫本出版・狩太夜話・会報・未来会・ホームページ）

	2022年度(末)の役員体制
会長	井上 剛
副会長	
理事	井上 剛 斉藤 海三郎 高木 直良 藤波 ひとみ 水町 由理子
監事	佐竹 三郎 山﨑 英文
事務局 (会計)	梅田 滋 春日井 雅子

※五十音順

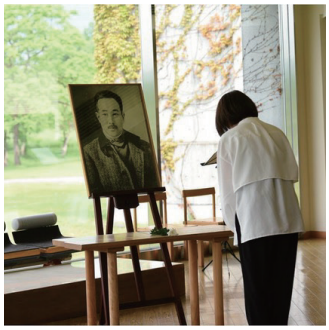
	2023年度の体制
運営委員会 ‖ 役員・事務局を兼務 （事務局は役割分担）	井上 剛 氏家 健太 梅田 滋 春日井 雅子 斉藤 海三郎 櫻井 麻衣子 高木 直良 藤波 ひとみ
監事	佐竹 三郎 水町 由理子

※五十音順

有　島　記　念　館　事　業　報　告

1　2
3　4

1 星座忌コンサート
2 しりべしミュージアム・ロードコンサート「色彩と調和」
3 書と音楽のライブパフォーマンス
4 本郷弦朗読会



星座忌(運営委員代表の献花)

企画展

- 春から初夏の藤倉英幸展
  『田園散策 Part2』
  (4・22 ～ 7・9)
- 内田正泰・藤倉英幸展
  『はり絵に託した風景たち』
  (7・15 ～ 10・9)
- THE BLUE EXHIBITION
  (8・27 ～ 10・9)

普及事業

- 講座『有島武郎と北海道』
  (6・10)
- 星座忌／星座忌コンサート
  「森は緑の季節」(6・11)
- 映像上映会 映画「大地の侍」
  (6・18)
- 藤倉英幸講演会
  「はり絵に託した風景たち」
  (7・22)
- しりべしミュージアム・ロードコンサート「色彩と調和」(7・22)
- 書と音楽のライブパフォーマンス
  「ART×MUSIC×FOOD」
  (7・22)
- 本郷弦朗読会2023
  「有島武郎がたどり着いた場所」(8・11)
- 野瀬栄進ジャズピアノコンサート2023(8・19)
- 有島記念館連続講演会
  1. 初心者向け講座「有島武郎と北海道」／講座「有島武郎とヨーロッパ」(8・5)
  2. 講座「有島家と鎌倉」(9・2)
  3. 講座「有島家と九州」(9・10)
- 館長講話「美人画の大衆戦略 藍摺絵(あいずりえ)の創始者：渓斎英泉(けいさいえいせん)」
  (9・16／30)
- アニメーションプロジェクト
  「ニセコパーティー」
  (9・23／24)

有島記念館の行事予定
(10月～3月)

- 「内田正泰・藤倉英幸展はり絵に託した風景たち」有島武郎没後100年記念事業 夏から秋の藤倉英幸展(7・15～10・9)
- 第35回 有島武郎青少年公募絵画展(10・28～11・12)表彰式(11・3)
- 「藤倉英幸展北岬回遊」有島武郎没後100年記念事業 冬から春の藤倉英幸展(11・25～4・14)

あなたの、こえ
みんな
わたし
声

小さくなる話

井上　剛

過日ある人から本を紹介されました。『翻訳がつくる日本語　ヒロインは「女ことば」を話し続ける』(中村桃子著　白澤社2013年)という本です。私の存在を揺るがしかねない内容が書かれていましたので、是非皆さんに聞いていただきたく筆を取りました。

『林檎の樹』(ジョン・ゴールズワージー著　法村里絵訳　2018(平成30)年新潮文庫)に次のような台詞がありました。

「いいのよ。何かあったにちがいないって思ってたの。お友達ですもの、あんなことなんでもないわ」

新聞、雑誌で見られますが、翻訳小説でもよく目に付く表現です。傍線部分がいわゆる「女ことばの文末詞」と言われるものです。皆さんも活字で読む時によく目にされると思いますが、日常生活における実際の会話では滅多に耳にすることはないはずです。それもそのはず、2004～5年の首都圏の20～40代女性の会話を対象にした調査によると、「わ、だわ、わよ、わね、かしら、体言+ね、体言+よ」などの文末詞は40代以上には残っているものの、その下の世代では徐々に死語になりつつあり、特に20代ではほぼ消滅しています。約20年後の現在、そのような言葉づかいをする人はほとんどいないと想像されます。

「女ことば」は敬語と並んで、世界でも珍しい日本語の伝統と考えられているそうです。実際にはほとんど使われていない言葉づかいが、日本人女性らしい表現だと私たちは思い込まされている。意図的でないにせよ、そう仕向けたのは明治から続いている翻訳であるという主張を読んで私は魂消(たまげ)てしまいました。自分がずっとそう思い込まされていることに気付いたからです。

この本には私が驚いたことがたくさんあって目から鱗が4枚も5枚も落ちたのですが、もうひとつ特にビックリしたことを挙げます。『風と共に去りぬ』(1957年版)に出てくる黒人奴隷の台詞です。「いんや、ごぜえますだ、ねえだが、ますだよ、～しただ、ですだよ、めえりましただ」などの文末詞が使われています。他にも『新訳アンクル・トムの小屋』(1990年)で

も「おら、ますだ、～せえました」などが依然として使われているのです。私は若い頃この表現を見ても格段の違和感を覚えませんでした。黒人奴隷だから教育も十分に受けていないだろうし、そんなもんじゃないのと思い込んでいたのです。今から考えると酷(ひど)い話ですが、そうとも思わずに受け入れている自分がいました。皆さんはどうですか。私と同じような経験をしていませんか。

ところで、私が一番驚いたのはこのことではないのです。皆さんは先に出た黒人奴隷の文末詞を見て、どこかで見たり聞いたりした覚えがあるように感じませんでしたか。これって東北弁に似てるよね、と思った方もいるでしょう。私もそうでした。では日本全国多くの方言がある中でなぜ東北弁なのでしょう。

米文学にはアフリカ系の人々を他者にすることで存在してきた歴史があるそうです。『風と共に去りぬ』の原作でも黒人に「奇妙な方言」を使わせることで、黒人を白人の「他者」にしてきたのです。（余談ですが、主人公スカーレットは南部の田舎で暮らしていますから南部なまりの方言を話すのが自然だと思われますが、原作では標準英語に近い話し方になっているそうです。）そして「ごぜえますだ」に代表される言葉づかいは、標準語ではない話し方として採用されているというのがこの本の主張です。

では、なぜ東北弁なのでしょう。１９８０年に５５０人の学生を対象に全国の方言イメージ調査が行われました。その中では東京弁と東北弁の評価が両極端に分かれていました。都会的、標準語に近い、歯切れがよい、正しいなどのイメージを持つ東京弁と、地味、重いなまりがある、不明瞭などのイメージの東北弁というわけです。恐らくこのイメージの違いは明治時代からあったのでしょう。

つまり、原作では白人を標準英語、黒人を非標準英語と区別するのに比例した形で、翻訳では標準語と違うことを強調した話し方をさせるのに、東京弁から最も異なると考えられている東北弁を利用しているのではないかということでした。しかもその東北弁にしても他の方言も混ぜて使っている「疑似東北弁」だというおまけ付きです。

実は、差別されたのは東北弁だけではありませんでした。「標準語」という概念は明治時代に「国語」の基準として作られたものです。当時の国語学者が「標準語は…中流社会の男子の言葉を採る」と明言したことから選ばれたのが「教育ある東京人の言葉づかい」でした。「教育ある」という言葉によって東京下町のべらんめえ言葉や職人言葉が排除されましたし、「教育ある」には社会階級の区別が表れています。また、「東京人」という言葉で排除されたのが東京以外で使われていた言葉づかいで、それらの言葉は「国語」の成立を急ぐ明治政府にとっては障害として認識されたようです。そこには「東京語＝優れた標準語」対「非標準語＝劣った方言」（つまり、東京以外の言葉（＝方言）は教育のない人が使う劣った言葉）という図式があったのです。

元々が「中流社会の男子の言葉」ですから女性は除かれています。そこで、「女版・標準語」として女ことばが位置付けられました。翻訳というフィルターを通して見ると、「（男の）標準語＝白人中流男性の言葉づかい」であり、「女版・標準語＝女ことば＝白人中流女性の言葉づかい」と

いう図式が定着しました。もっとも最近では、翻訳でも女ことばが使われない傾向にあるようです。翻訳を通した男女差別もなくなっていくとよいのですが。

この本を読んですぐに思い当たったのは、自分の中に隠れている差別意識でした。自分の中で当たり前だと認識されていたことが他人から非難されてしかるべきもの、しかも恥ずべきものであったと知った時の衝撃は、これまでの生き方を否定されたも同然でした。年を取ると学ぶことを通して自分に降りかかってくることが多く、その度に自分が小さくなって生きて行かねばならないような気になります。今度お目にかかれる機会があっても、小さくなりすぎて目の前にいる私に気付いてもらえないかもしれません。どうぞ皆さん、お達者で。

終わりにひとこと

「土香る会」は、今回から新たな編集チームを置き、新しい構成に挑戦しました。有島武郎の遺産を伝えるメディアとして、より魅力的で読みやすい体裁を求めました。

私は、全体の構成、デザインを担当させていただきました。今回の会報で、会員の皆様に新たなインスピレーションを提供できることを願っております。この試みに携わり、支えていただいた皆様に深く感謝いたします。

次号以降も、読み応えのある会報誌をお届けしてまいります。

先日、実は初めて有島記念館のイベントに、息子を連れて参加しました。その名もアニメーションプロジェクト「ニセコパーティ」。

アーティストの磯崎道佳さん(ニセコ在住)を迎えてのワークショップ形式で、一緒にアニメーションを制作していくというものでした。主に今回は子どもたちを主体にしたものでしたが、大人も楽しめる内容でした。こちらの完成品は有島記念館で展示、鑑賞できましたが、現在はYouTubeも見られます。

日常を忘れ、現代アートにも触れてみませんか?

(櫻井 麻衣子)

ニセコアニメーション「ニセコパーティ」@有島記念館、北海道ニセコ町
ワークショップ:9/23(土)、24(日)
撮影編集:南俊輔、磯崎道佳

ビニールテープを使い空想のモンスターを作成し、できあがったモンスターを用いて館内、屋外で2日間コマ撮りのアニメーション撮影を行いました。Youtubeで完成した映像作品を公開しています。

有島記念館と歩む会

土香る会

2023年11月30日発行
発行：土香る会（春日井方）
ニセコ町字富士見31-41
0136-44-2106

info@tsuchikaoru-kai.org

原稿をお寄せください。

土香る会の会報編集チームでは，広く本誌読者、会員の皆様からの投稿をお待ちしています。
文章の長さ、内容、種類は問いません。有島武郎に関連することにかかわらず、論説、文献紹介、記録、史料、紀行、アイデア紹介およびエッセイなどお寄せ下さい。

感想もお寄せください。

会報がリニューアルされ、皆様の貴重なご意見をお聞かせいただきたく、感想を募集しております。
新しいコンテンツやデザイン、興味を引く記事など、どんなことでも結構です。
ぜひお気軽にご意見・感想をお寄せください。

ARISHIMA

土香る会
ホームページ